

# 尚徳

学校便り「尚徳」12月号  
第495号

鳥取大学附属小学校

平成25年12月11日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



## 色彩の力・その2

校長 平井 覚

12月に入ると急に寒い日が続くようになり、教室にも暖房が入る季節になりました。児童の制服も上下が紺色の冬服になりましたが、授業が始まる前の朝の時間や授業間の休憩時間に、紺色の冬服姿の児童たちが校庭を走り回っている姿はあまりにも元気で、私には寒い季節になったということを忘れさせてくれます。

公立の小学校では、一般的には制服の指定は無く私服で通学するのが普通の児童の姿でしょう。制服がないということは、どんな衣服を着て通学してもよい訳ですから、衣服による色彩を通した自己表現を毎日することができます。それに対して、紺色の制服を着る児童たちは、衣服による自由な色彩を通しての自己表現はできませんが、制服を着るという行為により、附属小学校の児童であるという高い規律意識や帰属意識を毎日学んでいることになりま

す。大学の授業で「知っている色の名前を全て書きなさい。」と学生に知っている色の名前を書かせますと、多く書くことができた学生でも40個ほどの名前しか書くことができません。人間が識別することができる色彩の数は諸説ありますが、700万色とも言われています。しかも、毎日のようにいろいろな色彩を見ているはずなのに、色の名前を書き出してみると40個ほどしか出てこないのです。

では、同じく毎日のように見ている信号機の色を考えてみましょう。進行方向にある車両用の信号機の色は、真ん中は黄色ですが赤色は右側でしょうか、左側でしょうか。信号機の色が示す意味は、赤色は

止まれという絶対的な禁止ですが、青色は安全が確保される場合は進むことができるという条件付きの許可を示しています。そもそも、なぜ止まれは赤色なのでしょう。他の色では不適格なのでしょうか。

赤色は血の色と同じなので注意喚起の力が強いからという理由等も答えの一つでしょう。しかし、赤色にはもう一つの力があります。赤色や黄色などの暖色系の色は前進色とも呼ばれ、距離が近くに見えるという効果をもっているのです。反対に、緑色や青色の寒色系の色は後退色と呼ばれ、後ろに退いて見える効果をもっています。信号機の赤色の意味は止まれという絶対的な禁止ですので、より近くに見えて認識しやすい前進色である赤色が選ばれていると考えられます。

歯科の病院で働く歯科衛生士の女性は、白衣ではなくピンク色や薄い黄色の衣装を着ている場合があります。これは、歯科の病院は痛くて怖いというイメージを少しでも和らげようとする心理的な効果を狙った色彩の選択です。では、医師が手術のときに着る手術着は白衣ではなく、なぜ淡い青緑系や青系の色なのでしょうか。……

「学校が休みの日でも、心の中では制服を着ましよう。」

これは、制服を着ていなくても附属小学校の児童であるという自覚を忘れてしまわないように、夏休みなどの学校が休みになる前には、必ず児童に私から話していることです。しかし、制服を着ない日には、いろいろな色彩の衣服を身につけて色彩による自己表現を経験することにより、色彩の魅力にいつそう興味をもって欲しいとも私は願っています。

## 【人権教育参観日】

11月20日、人権教育参観日を行いました。学年の発達段階に応じ、人権尊重の実践的態度を育てる学習を公開しました。

1年生の「すてきなじぶんすてきなともだち」では、友だちやお家の人からの「自分のすてきメッセージ」を読み、一人一人のよさや家族から大切にされているという喜びを共有することができました。2年生の「ことばのまほう」では、言葉一つで人とつながることも、人を傷つけてしまうこともあるということを学び、これからの言葉の使い方について考えました。3年生の「みんなの生活をよくするために」では、ユニバーサルデザインの意味を考え、体験活動を通して、生活をよりよくするためのものが身の回りにはたくさんあることに気づきました。4年生の「共に生きる～心のバリアフリーを」では、福祉体験をしたことをもとに考えました。5年生の学習では、「地球家族」の写真を使って「あってよいちがい」と「あってはならないいちがい」について考えました。6年生は、鳥取県原爆被害者協議会の

講師を招き、体験談や思いを聞かせていただき、平和について意見交流をすることができました。

人権講演会では、落語家の桂 七福さんに「気づけば高まる人権意識」と題し、講演をしていただきました。子どもとのコミュニケーションをどのようにとることがよいのか、普段何気なく使っている言葉について、少し立ち止まって考えることの大切さなど、笑いを交えながら話術巧みにお話していただきました。

人権問題を身近な問題として捉え、相手の気持ちを考え思いやることの大切さについて、家庭でも学校でも継続して考え、よりよい社会の実現に力を合わせていきたいと思っています。



